

お地藏様のお導きと地獄と極楽

地藏菩薩の功德(六道の救済者)

令和四年八月法話 薬師寺 管主 加藤朝胤

地藏菩薩 (じぞうぼんし) ㊦ クシテイ・ガルバ (क्षितिधर Kṣiti gharbha)

ご真言 オンカカカビサンマエイソワカ

佛教の信仰対象である菩薩の一尊

クシテイは大地 ガルバは胎内・子宮の意味 意識 地藏・持地・妙幢・無辺心

大地が全ての命を育む力を蔵するように、苦悩の人々をその無限の大慈悲の心で包み込み(菩薩)、救う所から名付けられた

一般的には「子供の守り神」で、子供が喜ぶお菓子が供えられている

切利天に在って釈迦如来の付属を受け、毎朝禪定に入って衆生の機根(性格や教えを聞ける能力や素質)を感じ、釈迦如来の入滅後、五十六億七千万年後に弥勒如来が出現するまでの間、現世に佛が不在(無佛)となってしまうため、その間、六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天人)を輪廻する衆生を救う菩薩

本来は虚空蔵菩薩と地藏菩薩は対になっていたが、平安時代以降地藏菩薩信仰が盛んとなり独尊として祀られる事が多い

地藏菩薩よ、吾は今切利天に在る 百千萬億の救え尽くす事のできぬ多くの

諸佛諸菩薩天龍八部の大会の中で、天、人その他の衆生にして、未だ三界を

出でず、火宅の苦を免れ得ぬ者を挙げて汝に付属する 『地藏菩薩本願功德経』

像容

一般には剃髪した声聞・比丘形(僧侶の姿)で白毫があり、袈裟を身にまとう。装身具は身に着けないか、着けていても瓔珞(ネックレス)程度。左手に如意宝珠、右手に錫杖を持つ形、または左手に如意宝珠を持ち、右手は与願印(掌をこちらに向け、下へ垂らす)の印相をとる像が多いが、基本的には装身具を身に着けず、持物と呼称は必ずしも統一されていない。

瓔珞 合掌 蓮華 錫杖 香炉 幢幡 数珠 宝珠

地藏菩薩と閻魔大王は一なり

地藏菩薩も閻魔大王も共に本地は阿弥陀如来で、地藏菩薩は慈悲を、閻魔大王は忿怒を示現する

日本における地藏菩薩信仰

日本においては、浄土信仰が普及した平安時代以降、極楽浄土に往生の叶わない衆生は、地獄道や餓鬼道へ堕ちるものという信仰が強まり、地藏菩薩に対して、地獄における責め苦からの救済を欣求するようになりました

鎌倉時代以後、民間信仰に取り入れられて、賽の河原で獄卒に責められる童児の救済者として和讃を唱えます

不慮の災禍によつて我が子を失った親が、その子の追善供養の為に遭難した場所に造立安置する事があります 子育て地藏尊、子安地藏尊としての信仰

地藏菩薩は「一斉衆生済度の請願を果たさずば、我、菩薩界に戻らじ」との決意で六道を自らの足で行脚して、救われない衆生や、親より先に世を去った幼い子供の魂を救つて旅を続けています

幼い子供が親より先に世を去ると、親を悲しませ親孝行の功德も積んでいないことから、三途の川を渡れず、賽の河原で鬼のいじめに遭いながら石の塔婆作りを永遠に続けなければならぬとされ、賽の河原に率先して足を運んで鬼から子供達を守ってやり、佛法や経文を聞かせて徳を与え、成佛への道を開いて下さいます

六地蔵

地藏菩薩の像を六体並べて祀った六地藏尊が各地で見られます 六道輪廻の思想(全ての生命は六種の世界に生まれ変わりを繰り返す)に基づき、六道のそれぞれを六種の地藏菩薩が救うとする説から生まれたものです

六地藏尊の個々の名称は一定していません

六地藏尊は多くは辻の交差点や墓地の入口などに祀られています

金剛願地藏	地獄道
金剛宝地藏	餓鬼道
金剛悲地藏	畜生道
金剛幢地藏	修羅道
放光王地藏	人道
預天賀地藏	天道

印度王の転生

久遠の昔、印度に大変慈悲深い二人の王様がいました。一人は自らが佛となることで人を救おうと考え、一切智威（成就）如来という佛になりました。もう一人の王様は佛になる力を持ちながら、あえて佛とならずに、自らの意志で人の身のまま地獄に落ち、すべての苦悩と迷い続ける魂を救おうとしました。それが地蔵菩薩です。

地蔵菩薩の靈験は膨大であり、人々の罪業を滅し成佛させるとか、苦悩する人々の身代わりになって救済するという説話が多くあります。

お地蔵様の御利益

地蔵菩薩の十福

女人泰産 身根具足 衆病疾除 寿命長遠 聰明智慧
財宝盈益 衆人愛敬 穀物成熟 神明加護 証大菩提

『地蔵菩薩本願經』には、二十八種利益と七種利益が説かれている。

二十八種利益

- ① 天龍護念（天龍が保護してくれる）
- ② 善果日増（善いカルマが日々増していく）
- ③ 集聖上因（聖にして上なるカルマが集まってくる）
- ④ 菩提不退（悟りの境地から後退しない）
- ⑤ 衣食豊足（衣服や食物に満ち足りる）
- ⑥ 疾疫不臨（疫病にかからない）
- ⑦ 離水火災（水難や火災を免れる）
- ⑧ 無盜賊厄（盗賊による災厄に遭わない）
- ⑨ 人見欽敬（人々が敬意を払って見てくれる）
- ⑩ 神鬼助持（神靈が助けてくれる）
- ⑪ 女転男身（女性から男性になれる）
- ⑫ 為王臣女（王や大臣の令嬢になれる）
- ⑬ 端正相好（端正な容貌に恵まれる）
- ⑭ 多生天上（何度でも天上に生まれ変わる）
- ⑮ 或為帝王（あるいは人間界に生まれ変わって帝王になる）
- ⑯ 宿智命通（カルマを知る智慧を持ち、カルマに通ずる）
- ⑰ 有求皆従（要求があれば皆が従ってくれる）

七種利益

- ⑱ 眷属歓楽（眷属が喜んでくれる）
- ⑲ 諸横消滅（諸々の理不尽なことが消滅していく）
- ⑳ 業道永除（カルマが永久に除かれる）
- ㉑ 去処盡通（赴く場所にうまくいく）
- ㉒ 夜夢安楽（夜は夢が楽しめる）
- ㉓ 先亡離苦（先祖が苦しみから解放される）
- ㉔ 宿福受生（幸福になる運命の人生を授かる）
- ㉕ 諸聖讚歎（諸聖人が讃えてくれる）
- ㉖ 聰明利根（聡明で利発になる）
- ㉗ 饒慈愍心（慈悲の心に溢れる）
- ㉘ 畢竟成佛（必ず佛になる）

日本における地蔵信仰

日本においては、浄土信仰が普及した平安時代以降、極楽浄土に往生の叶わない衆生は、必ず地獄へ墮ちるものという信仰が強まり、地蔵に対して、地獄における責め苦からの救済を欣求するようになった。

賽の河原で獄卒に責められる子供を地蔵菩薩が守るという民間信仰もあり、子供や水子の供養でも地蔵信仰を集めた。関西では地蔵盆は子供の祭りとして扱われる。また道祖神と習合したため、日本全国の路傍で石像が数多く祀られた。